

2013年度立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアー レポート

氏名 : 寺崎 妙子
卒業年 : 2003年
卒業学部 : 文学部
参加コース : C福島相馬コース

今回のツアーに参加して、「知る」と、「伝える」ことの大切さを学びました。

私たちがすべきことは、まず「知る」ことでした。「知らない」がために、間違った解釈で怖いと感じたり、気付かないうちに風評被害の加害者になっていたりすることが起きています。正しい情報を得て、正しい行動、必要とされている支援を考えられるようにならなければならないと思います。

そして、実際に見たり、聞いたりしたことを、自分の周りの人たちに「伝え」なければなりません。より多くの人に東北の正確な情報を伝えることが、被災地支援の第一歩になると感じました。

私は特別支援学校で教員をしています。今回、福島で知ったことをまとめ、生徒に伝えました。生徒たちは、東北の様子に興味深く聞いていました。生徒たちが、何か行動したいと思った時、この報告が原動力になってくれればと思っています。

初めて訪れた福島は、一見、平和で穏やかな町の様でしたが、地元の方々の話を聞くと目に見えない被災の跡がまだまだ残っていました。実際行かなければ知ることができないことがたくさんありました。

福島での2日間で、「人と人のつながり」の強さを感じました。「立命館大学」を通して、東北の被災者の方々と全国の校友の方々がつながっていることに感銘を受けました。そして、私もその一人であることに感謝しています。

福島県校友会の方々には、温かい歓迎をして頂いて本当に感謝しています。ありがとうございました。今回の福島訪問を有意義なものにするため、自分にできることを探して行動していきたいと思っています。